

平成 30 年度 富士総合火力演習見学会 参加報告書

企画担当 日本大学 大学院理工学研究科 機械工学専攻

山下貴大

1. 実施要綱

● 程

2018 年 8 月 23 日（木）6：00～22：30

● 開催場所

東富士演習場，滝ヶ原駐屯地 A

● 参加者数

22 名

（内訳：自動車技術会学生会員 19 名，
自動車技術会関東支部 学生担当理事 2 名，
学自研 OP 1 名）

● 参加大学

東京農工大学，日本大学，横浜国立大学

● 目的

富士総合火力演習の見学を通して，通常，学生が身近に体験することが困難である「戦車・装甲車や，砲弾の凄さについて体感・実感」を獲得する機会を得ることを目的とする．また，この機会を通して，武器の迫力や怖さを知るとともに，日本の防衛に関して考える機会を得ることを目的とする．

● スケジュール（予定）

時間	行動
6:00	御茶ノ水駅集合
10:00～12:00	総合火力演習見学
13:00～13:40	展示広場で装備品を見学
14:30～15:30	ブリーフィング
16:00～17:00	戦車部隊見学
19:30～20:15	夜間演習見学 (当日は悪天候により中止)
22:30	御茶ノ水駅到着後解散

2. 見学会内容報告

2.1 総合火力演習（昼間演習）見学

午前中に行われた総合火力演習（昼間演習）は，前段，後段の二部に構成されている．

前段演習では，陸上自衛隊の主要装備を実演と共に紹介していただいた．一方，後段演習では，前段演習とは異なり離島の奪還を想定した演習を行っていた．

演習の中では，戦車による砲撃だけでなく，偵察用の二輪車やヘリコプターの運用などを見学することが出来た．

2.2 装備品見学

装備品見学では，総合火力演習（昼間演習）終了後に，演習場にて陸上自衛隊が使用している装備品（戦車や自走砲など）を見る時間が設けられている．そこでは，自衛官のお話を交えながら装備品を間近で見学することができた．

2.3 ブリーフィング

ブリーフィングでは、国防や自衛隊とは何かについての講演をいただいた。特に最近の東アジアの軍事情勢やミサイル迎撃などを中心とした日本の防衛事情をお話いただいた。

2.4 戦車部隊見学

今回、戦車部隊を見学する機会を頂き、運用している戦車の説明を戦車部隊の方々から直接聞くことが出来た。戦車は、3種類あり、それぞれの戦車についてその場で自衛官の方から説明を受けることができた。さらには、戦車の上に乗るという普通では体験し得ない貴重な機会を得ることができた。

2.5 夜間演習見学会

当日は、天候不良のため中止となった。

3. 参加者の感想

本見学会は、感想文の提出が参加条件となっていた。

参加者から提出して頂いた感想文の中から抜粋して参加者の感想を紹介する。

総合火力演習（昼間演習）見学

- ① 目の前で実弾が発射され、目標に精度よく弾着させる様は、迫力があり自衛隊の方の訓練の賜物だと思いました。
- ② 大雨が降っている中でも数キロ先の的に実際に戦車などで撃った弾が弾着する様子や複数の車両から撃たれた弾が同時に弾着をする様子を見ることで知ることができ、その迫力や高い技術力に大変驚きました。
- ③ 後段演習では敵の侵攻を想定した統合作戦を見学し、声が出るほどの芸術的な連携と射撃精度、火砲の轟音が胸に響きました。
- ④ あいにくの雨ではありましたが、装備品車両

が上げる水しぶき、爆風に煽られる雨粒、ヘリコプターのブレード端から伸びる筋など、雨天下ならではの富士総合火力演習を満喫させていただくことができました。

- ⑤ 強風や土砂降りの雨の中であるにもかかわらず火砲の命中精度の高さに驚きました。国の安全を守るために、日頃各種の兵器を幾多の電子装置を駆使しつつ実戦を模擬した訓練を実施されていること、様々な環境条件下で屋外での厳しい訓練を積まれている隊員の皆さんの訓練の賜物であると強く感じました。
- ⑥ 迫撃砲や10式戦車のスラローム射撃などで当たり前のように命中させていることに驚愕しました。このことから自衛隊の方々の技術の高さと防衛装備の性能の高さを感じることができました。

装備品見学

- ① 展示広場での見学時に近くで見ると車両の輪郭をぼやかすために何か付けているわけでもなく、ただ迷彩塗装がされているだけでした。もしもの時に少しでも優位になれるように車両の色でさえもこだわっていることに非常に感心しました。

ブリーフィング

- ① 中国からの太平洋の地図を、あまり拝見する機会がなかったので、それをお話の中で拝見することができ、中国から太平洋に進出する際には、日本列島や日本の島々等が障害となることが、分かり大変勉強になりました。
- ② 「我々は危ないとわかっているけども飛び込んでいく職業」との言葉が印象に残っており、さらに当日の大雨であっても変わらずに統率のとれた動きであり、いつでも飛び込め力が発揮できるような万全の状態であり続けているから、「抑止力」となり今の生活が成り

立っていると感じました。

- ③ 一時期ミサイル問題で北朝鮮が問題となっていました。それに対する自衛隊の考えを聞くことができ、高すぎる弾道ミサイルの迎撃が困難であることなどの知らないことを知ることができました。
- ④ 自衛隊に所属してからでも部隊だけでなく様々な民間の企業などで働いたりすることがあるといった経歴のお話に驚きました。

戦車部隊見学

- ① 砲身を目の前で見た際には、模型や画像でしか見たことがないライフリングが刻まれおり、実際に見ると大迫力でした。
- ② 戦車などを間近に見学することができ、型式ごとの砲や装甲の表面の違いを感じることができました。
- ③ 実際搭乗されている隊員の方から、実際に期待に触れる事のできる状態で質問に丁寧に説明をしていただける機会を得られたこと非常に感謝いたします。
- ④ 演習では軽快に走行していた戦車も、近くで見ると走行に囲まれた重厚な金属の塊といった印象でした。
- ⑤ 最新式の 10 式戦車と 90 式戦車を比較すると戦車自体の小型化や様々なセンサーが取り付けられており、技術の発達を知ることができました。

全体を通した感想

- ① 見学を通して命を懸けて日本を守る自衛隊の方々に対する感謝の思いが強くなりました。
- ② 本見学を通して自衛隊の方々が居るおかげで私たちが日頃安心して暮らせているのだと実感することが出来、1 日を通して大変満足出来た見学になりました。
- ③ 平成最後の富士総合火力演習を通して得ら

れたことは一生消えることのない思い出です。

- ④ 自衛隊は侵略者に対して有効な対策をできる戦力を持っていること、そして日本がそのような戦力を保持していることが、日本が侵略されないための抑止力になることを学ぶことができました。
- ⑤ 防衛に関して深く考える良い機会となりました。
- ⑥ 普段身近に感じる事が難しい自衛隊の方々の活躍を知る貴重な一日となり、今後の国防に関するニュースへの感じ方が一変するであろう心に残る経験となりました。

4. 総括

本見学会では多くの参加者が、砲撃時の音や衝撃音に驚愕し、装備の恐ろしさや技術力の高さを実感する事で、今までの防衛に対する他人事感が無くなったなどの感想を持つことが出来ていた。さらには、ブリーフィングや自衛官の生の声を聴くことにより防衛に関して再度考える良い機会となったことも多くの参加者の感想としてあった。これらのことから、今回の目的とした「戦車・装甲車や、砲弾の凄さについて体感・実感すること」や「武器の迫力や怖さを知るとともに、日本の防衛に関して考える機会を得ること」は概ね達成できたと考えられる。しかしながら、今回の反省として学自研から参加した大学は、昨年度と同様に三校と参加大学が非常に偏った見学会となってしまった。自国の防衛について考える事が出来、日常生活では見る事の出来ないものを見聞き出来る素晴らしい機会であるにもかかわらず、上手く参加者を募ることが出来なかったことは、非常に残念なことである。来年度は、募集の方法などを見直す事で様々な大学からの参加を手広く募集していきたい。

今回、夜間演習が中止されてしまったことは非常に残念だが、来年度は夜間演習が行われること

を期待して多くの参加者募集を行っていきたい。

5. 謝辞

本見学会を行っていただいた陸上自衛隊富士教導団の皆様，ブリーフィングをしていただいた教団副団長、本見学会の設定をしていただいた担当者、総合幹事の長先生には，心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。